

平成4年度

平塚市美術館年報

ANNUAL REPORT

The Hiratsuka Museum of Art 1992

目 次

企 画 展	1
常 設 展 示	8
教 育 普 及	14
ビ デ オ 制 作	24
保 存 ・ 修 復	29
収 蔵 作 品	30
統 計	33
沿 革	36
組 織 ・ 運 営	37
美術館協議会	37
組 織	38
職 員 名 簿	38

企画展

市制 60 周年記念

相模の禅僧 風外慧薫作品展

会 期 平成 4 年 3 月 20 日(金)～ 4 月 19 日(日)

主 催 平塚市美術館・平塚市博物館

近世の禅林美術に確固たる足跡を残した風外慧薫の展覧会を開催した。

風外慧薫は永禄 11 年(1568)、碓氷峠の麓の山村、土塩(群馬県松井田町)に生まれ、曹洞宗の寺で出家し、諸国遍歴の旅の後に相州成田(小田原市成田)の成願寺に入ったといわれている。その後、上曾我の洞窟に穴居し、さらに真鶴の海辺の堂へと居を移したが、その間に達磨や布袋などの墨画を数多く描いた。

禅林の美術は、禅人の修業の中で生まれ出たもので、風外の作品も例外ではないが、同時に風外には一碗の糧を得るという目的があった。米がなくなると達磨をひとつ描いて吊しておき、村人たちは米や野菜と引き換えに、それを持ち帰ったと伝えられる。飄々として軽やかな筆の運びのなかに、素朴で強靱な味わいを見せる風外の墨画は、現在にいたるまで多くの人々に愛されてきた。

本展は平塚市博物館が所蔵する高瀬コレクションから、風外慧薫の画と書 55 点を展示したものである。



展覧会図録 大きさ 25.7×18.2cm 頁数 68 頁

辻 惟雄「野に生きた僧—風外慧薫の生涯と作品」

今泉義廣「風外慧薫について」

花鳥画の世界—上村松篁・淳之展

会 期 平成4年4月28日(日)～5月24日(日)

主 催 平塚市美術館・読売新聞社

日本画の伝統的な画題である「花鳥」をテーマに、京都画壇で活躍する上村松篁・淳之父子による日本画約80点を展示した。

上村松篁は美人画の名手として知られた上村松園を母に京都に生まれ、四条派などの京都における日本画の伝統をふまえつつ、花鳥画の世界に独自の画境を開き、昭和59年には文化勲章を受章している。その華麗な色彩が織り成す装飾的な作品世界は、京都画壇ばかりか日本を代表する日本画家のひとりとして高く評価されている。

また、上村淳之は、自らアトリエに飼育舎を建て、鳥を身近で観察することにより、精緻で正確な鳥類を描く「鳥の画家」として独自の花鳥画の世界を示している。さらに現在京都市立美術大学で後進の指導にあたりながら、盛んな制作活動を行なっている。

伝統に裏付けられながら、近代日本画の新生面を切り開いたこれらの花鳥画の世界からは、日本の伝統的な美意識と共に、新しい感興と情趣を読み取ることができるだろう。

本展は「全国野鳥保護のつどい」の協賛として企画されたものであり、会期中の5月9日に日本鳥類保護連盟総裁常陸宮殿下、同妃殿下が来館された。



展覧会図録 大きさ 22.0×31.0cm 頁数 90 頁
河北倫明「上村松篁・淳之展によせて」
草薙奈津子「上村松篁・淳之と花鳥の世界」

竹久夢二展

大正ロマン—抒情のかたち

会 期 平成4年6月6日(土)～28日(日)

主 催 平塚市美術館・毎日新聞社

後 援 文化庁

大正の時代精神を端的に示し、今もなお多くの人たちの心を捉えて離さない画家、竹久夢二の回顧展を開催した。夢二の芸術は愛、ロマン、哀愁などと形容され、美人画に代表される。しかし、彼が残した仕事の全容はそれだけに留まらない。マスメディアの発達という時代の趨勢を捉えて夢二は、本の装丁を手がけ、絵はがきや楽譜の表紙のデザインをし、さらに浴衣地や千代紙の意匠の考案にいたるまでとじつに幅広く活躍した。

この展覧会では、そうした夢二の仕事の全貌を紹介すべく、肉筆の屏風や軸 56 点、水彩画、版画、さらに装幀本、セノオ楽譜の表紙絵、浴衣図案、千代紙のデザインほか 250 余点、あわせて 340 点が展示された。



展覧会図録

大きさ 28.0×22.5cm 頁数127頁

原田実「竹久夢二の生涯と仕事」

中右瑛「恋のうつし絵・夢二考く四つの恋のものがたり」

長田幹雄「夢二の手紙」

生誕100年記念 木内 克のすべて

—生命とロマンの交響—

会 期 平成4年8月22日(土)～9月20日(日)

主 催 平塚市美術館・木内克展実行委員会・美術館連絡協
議会 読売新聞社

協 賛 花王株式会社

生誕100年を記念してわが国の彫刻界に大きな足跡をしるした木内克の芸術60年の歩みを、初期から晩年にわたる作品190点によってうかがおうとするものである。

朝倉文夫の彫刻塾で学び、1921年に渡仏した木内は、パリで15年間を過ごしたが、初めブールデルに師事し、ラシュナルのもとで陶芸を試み、やがてギリシャのアルカイック彫刻に啓示をうけた。帰国後、松平須美子をモデルにしてきわめて独自の作風を築きあげた。とくに人体像によるその自在で柔軟なフォルムは生命感あふれ、テラコッタによるおびただしい裸婦小像群は塑像の魅力を遺憾なく発揮している。

本展は初期の滞欧作「犬」をはじめとするブロンズ、テラコッタなど127点と、素描や版画など62点を系統的に展示し、木内克の芸術を展望できる構成とした。



展覧会図録 大きさ 27.9×22.5 cm 頁数146頁

匠 秀夫 「木内克展によせて」

土方定一 「木内克の世界」

土方定一 「木内克さんの彫刻造形」

佐藤忠良 「克 先生」

掛井五郎 「LA REVOLUTION」

木内 岬 「木内克のこと」

土方明司 「木内克とテラコッタ」

荒木扶佐子 「木内克の蠟型彫刻について」

森田英之 「木内克とモデル松平須美子」

関連事業

講演会 講師 松川八州雄 (映像作家)

演題 「木内克を語る—映像と講演の会—」

映画 「土くれ」松川八洲雄 (脚本・演出)

日時 平成4年9月6日(日) 午後2時

会場 講 堂

ビデオ

放 映 「土くれ」

三岸好太郎と三岸節子展

—愛と芸術の軌跡—

会 期 平成4年10月3日(土)～11月3日(日)

主 催 平塚市美術館・朝日新聞社・神奈川新聞社

夭折の天才画家として日本の近代美術に名を残す三岸好太郎と、その妻であり、日本の洋画壇における女性画家の先駆的存在となった三岸節子の二人展を開催した。

本展では、道化のシリーズをはじめとして蝶と貝殻など初期から晩年に至るまでの三岸好太郎の代表作を展示すると共に、好太郎の晩年の10年間を共に生きた三岸節子の花シリーズや渡欧時代の代表作を展示、二人の芸術の軌跡をそれぞれの代表作によって辿った。

また、本展開催にあたり、好太郎、節子と親交のあった平塚ゆかりの画家鳥海青児と森田勝の作品も合わせて特別展示を行なった。



展覧会図録	大きさ	28.4×22.5cm	頁数	138 頁
	匠秀夫「三岸好太郎、三岸節子の芸術」			
講演会	地家光二「画壇へのデビュー」「模索の頃」「道化の誕生」「新たな船出」「めまぐるしい変貌」「蝶と貝殻」			
	小松崎拓男「女流画家の出発」「苦悩の時代」「再びヨーロッパの地へ」「花より花らしく」			
講演会	講 師	匠秀夫（茨城県近代美術館長）		
	演 題	「三岸好太郎と三岸節子の芸術」		
	日 時	平成4年10月11日(日) 午後2時		
	会 場	講堂		

市制 60 周年記念 田中真洲回顧展

会 期 平成 4 年 11 月 14 日(土)～ 12 月 13 日(日)

主 催 平塚市美術館

後 援 神奈川新聞社

市制 60 周年記念事業の一環として計画された本展は、平塚市出身の書家田中真洲が満百歳を迎えたのを機に、自選作品を中心に構成される予定であったが、展覧会開催直前に書家が逝去したため回顧展として開催され、初期作品から絶筆までの書作 100 点と資料（書籍、筆、墨、硯、印など）によって構成された。真洲は、近藤雪竹、日下部鳴鶴らに書法を学び、篆、隸、楷、行、草いずれの書体にも通じ、さらに篆刻、漢学、南画を修めるなど、総合的に書芸術を探究した書家であり、細分化された現代の書道界のあり方に批判的であった。本展はそうした氏の総合的な書芸術の探究という姿勢に焦点をあてた構成となった。また本展によって、市民に広く書に親しむ機会を提供した。

展覧会図録 大きさ 28.5×22.8cm 頁数 128 頁

今泉義廣「拈花微笑」



彩られた魂の調べ シャガール版画展

会 期 平成5年2月13日(土)～3月21日(日)

主 催 平塚市美術館・毎日新聞社

後 援 フランス大使館

協 力 笠間日動美術館

ジュニアガイドブック



20世紀初頭のパリに学び、故郷ロシアの風土をもとに幻想的な情景を輝くような色彩で描き続けた画家マルク・シャガール(1887～1985)の版画展を開催した。シャガールの版画制作は、挿画本を積極的に出版していたパリの画商ヴォラールとの出会いに始まり、晩年はリトグラフを中心に死の直前まで続けられている。今回はそのシャガール後期の挿画本「悪童たち」「以心伝心」「サーカス」そして大型連作リトグラフの4つのシリーズ計87点を展示し、シャガールの版画表現の魅力を伝えた。

また愛好者の多いシャガールの作品を展示するにあたって、この機会により美術館に親しめるよう、あわせて普及活動に力を入れた。初めての試みとして展示室内でのワークシート、ガイドブックの配布、そして小学生のためのギャラリーツアーを実施した。また講演会や、アトリエでのワークショップも開催した。

展覧会図録 大きさ 26.9×21.8cm 頁数 48頁

藤井久栄 「シャガールの版画」

関連事業 ○講演会

日 時：平成5年2月28日(日) 午後2時

講 師：藤井久栄(美術評論家、筑波大学教授)

演 題：「シャガールの版画について」

会 場：講堂

○ジュニアガイドブック配布

大きさ：A4

部 数：12,000部

○ワークシート配布

大きさ：A4

種 類：4種類

部 数：各10,000部

○シャガール探検ギャラリーツアー ※教育普及欄参照

○銅版画(エッチング)講座 ※教育普及欄参照



常設展示

平塚市が湘南の中央に位置するところから、美術館のテーマを「湘南の美術・光」とし、相模湾沿岸地域にゆかりある作家の作品を収集し常設展示を行っている。

湘南にゆかりのあるとは、この地域が作家の生い立ちや制作の動機になんらかの関係をもつものであることをいう。開館に至るまで、美術館建設準備室では、この地にゆかりある近代から現代までの美術活動を展望しうる優れた作家の作品の収集に努めてきた。特に平塚市で生まれた洋画家鳥海青児の作品は、油彩、素描合わせて120点余りの作品を所蔵しており、収蔵品の柱になっている。他にも岸田劉生、椿貞雄、萬鐵五郎、原精一、二見利節、中村琢二、日本画では安田靉彦、山本丘人、工藤甲人、近藤弘明等の作品が常設展示で鑑賞できる。作品の保存や、常設展に新鮮な印象をもたらすために平成3年度は2回の展示替えを行った。

第1回常設展示出品目録

平成4年6月3日(水)～12月13日(日)

NO	作 者 名	作 品 名	制作年	材 質・技 法
1	黒田 清輝	由比ヶ浜	1897	油彩・板
2	黒田 清輝	波打ち際の岩	1896	油彩・板
3	萬 鐵五郎	住吉神社風景	1909頃	油彩・板
4	萬 鐵五郎	海景習作	1909頃	油彩・板
5	萬 鐵五郎	湘南風景	1926	油彩・キャンバス
6	萬 鐵五郎	海岸風景	1924	油彩・キャンバス
7	萬 鐵五郎	砂丘風景	1924	油彩・キャンバス
8	萬 鐵五郎	椿	1926	油彩・キャンバス
9	萬 鐵五郎	静物	1926	油彩・キャンバス
10	椿 貞雄	鵠沼風景	1921	油彩・キャンバス
11	椿 貞雄	菊子坐像	1922	油彩・キャンバス
12	岸田 劉生	F氏像	1914	油彩・キャンバス
13	岸田 劉生	Aの肖像	1913	油彩・キャンバス
14	岸田 劉生	石垣ある道	1921	油彩・キャンバス
15	林 俊衛	白い橋と緑樹		油彩・キャンバス
16	牧野 虎雄	庭小徑(秋)	1936	油彩・板
17	鍋井 克之	琵琶湖のヨット	1950	油彩・キャンバス
18	野口弥太郎	裸婦		油彩・キャンバス
19	二見 利節	男鹿の景	1941頃	油彩・キャンバス

NO	作 者 名	作 品 名	制作年	材 質・技 法
20	二見 利節	箱根風景		油彩・キャンバス
21	中川 一政	薔薇		油彩・キャンバス
22	三岸 節子	インカの壺	1968	油彩・キャンバス
23	朝井閑右衛門	魔園に於いて	1926	油彩・キャンバス
24	朝井閑右衛門	悪霊と道化	1972	油彩・キャンバス
25	小山 敬三	晩秋飛瀑	1977	油彩・キャンバス
26	鳥海 青児	芦屋風景	1926	油彩・板
27	鳥海 青児	シベリア駅路の雪	1930	油彩・キャンバス
28	鳥海 青児	道化	1939	油彩・キャンバス
29	鳥海 青児	裸婦	1928	油彩・板
30	鳥海 青児	北京天壇	1941	油彩・キャンバス
31	鳥海 青児	水田	1936	油彩・キャンバス
32	鳥海 青児	沖縄風景	1940	油彩・キャンバス
33	鳥海 青児	石だたみ	1962	油彩・キャンバス
34	鳥海 青児	ピカドール	1958	油彩・キャンバス
35	鳥海 青児	黄色い人	1956	油彩・キャンバス
36	鳥海 青児	草花	1950~60	油彩・キャンバス
37	鳥海 青児	伊賀瓶子とメロン	1957	油彩・キャンバス
38	鳥海 青児	果汁を吸うマヤ人	1964	油彩・キャンバス
39	鳥海 青児	ブラインドをおろす	1959	油彩・キャンバス
40	鳥海 青児	大理石をはこぶ男	1958	油彩・キャンバス
41	鳥海 青児	北海道風景	1928	コンテ・紙
42	鳥海 青児	沖縄風景	1940	水彩・紙
43	鳥海 青児	ピカドール（3）	1958頃	パステル・鉛筆・紙
44	鳥海 青児	ピカドール（4）	1958頃	パステル・鉛筆・紙
45	鳥海 青児	ピカドール（5）	1958頃	パステル・鉛筆・紙
46	鳥海 青児	闘牛士（2）	1958	パステル・鉛筆・紙
47	鳥海 青児	顔をかくす裸婦	1956	パステル・鉛筆・紙
48	原 精一	桐生風景	1927	油彩・キャンバス
49	原 精一	本を見る女	1934	油彩・キャンバス
50	原 精一	煙草のむ男	1936	油彩・キャンバス

NO	作 者 名	作 品 名	制作年	材 質・技 法
51	原 精一	二人の浴女	1949	油彩・キャンバス
52	原 精一	黒衣少女	1955	油彩・キャンバス
53	原 精一	静物	1956	油彩・キャンバス
54	原 精一	座裸婦	1955頃	油彩・キャンバス
55	原 精一	パレリーナF嬢		油彩・キャンバス
56	原 精一	裸婦		油彩・キャンバス
57	原 精一	三人	1981	油彩・キャンバス
58	原 精一	桃色の女	1985	油彩・キャンバス
59	工藤 甲人	愉しき仲間（一）	1951	紙本着色
60	工藤 甲人	樹木のうた	1956	紙本着色
61	安田 鞆彦	孔子観河		紙本着色
62	安田 鞆彦	日食	1925	紙本着色
63	川端 玉章	佐野常世		紙本着色
64	中村 貞以	蜚		紙本着色
65	横山 大観	不盡之高嶺	1915	紙本着色
66	下村 観山	竹林図		紙本墨
67	近藤 弘明	幻光一御感の藤	1987	紙本着色
68	山本 丘人	入江	1954	紙本着色
69	山本 丘人	岩壁		紙本着色
70	広田 多津	流	1972	紙本着色
71	鈴木 至夫	春		紙本着色
72	吉川 朝衣	早春		紙本着色
73	土井 俊泰	作品 1		油彩・ボード
74	土井 俊泰	作品 2		油彩・ボード
75	三橋兄弟治	セゴビアの古寺と民家	1969	水彩・紙
76	島田 章三	エウローペ	1968	油彩・キャンバス
77	藤井 芳子	白い服		油彩・キャンバス
78	井上 三綱	馬を御す	1949	油彩・キャンバス
79	鶴田 猛	機関車		油彩・キャンバス

第2回常設展示出品目録

会期 平成4年12月15日～平成5年4月

NO	作者名	作品名	制作年	材質・技法
1	黒田 清輝	波うち際の岩	1896	油彩・板
2	黒田 清輝	由比ヶ浜	1897	油彩・板
3	山本 鼎	国府津海浜より箱根連山を望む	1936	油彩・キャンバス
4	萬 鐵五郎	ねて居る人	1923頃	木版・紙
5	萬 鐵五郎	羅布かづく人	1924	木版・紙
6	萬 鐵五郎	住吉神社風景	1909頃	油彩・板
7	萬 鐵五郎	海景習作	1909頃	油彩・板
8	萬 鐵五郎	宙腰の人	1924	油彩・キャンバス
9	萬 鐵五郎	富士(砂丘風景)	1924	油彩・キャンバス
10	萬 鐵五郎	海岸風景	1924	油彩・キャンバス
11	萬 鐵五郎	湘南風景	1926	油彩・キャンバス
12	萬 鐵五郎	椿	1926	油彩・キャンバス
13	萬 鐵五郎	静物	1926	油彩・キャンバス
14	岸田 劉生	Aの肖像	1913	油彩・キャンバス
15	岸田 劉生	F氏像	1914	油彩・キャンバス
16	岸田 劉生	石垣ある道(鵠沼風景)	1921	油彩・キャンバス
17	岸田 劉生	自画像	1917	コンテ・紙
18	木村 莊八	ギターを弾く男(鳥海青児)	1930	油彩・キャンバス
19	中川 一政	椅子の女	1941	油彩・キャンバス
20	椿 貞雄	鵠沼風景	1921	油彩・キャンバス
21	椿 貞雄	菊子坐像	1922	油彩・キャンバス
22	椿 貞雄	朝子	1927	油彩・キャンバス
23	鳥海 青児	芦屋風景	1926	油彩・板
24	鳥海 青児	静物	1926	油彩・板
25	鳥海 青児	サンマルコの広場	1930	油彩・キャンバス
26	森田 勝	矢車舂	1928	油彩・キャンバス
27	森田 勝	風景	1929頃	油彩・キャンバス
28	森田 勝	街(フランス)	1933頃	油彩・厚紙
29	森田 勝	女の顔(女)	1933頃	油彩・キャンバス
30	原 精一	桐生風景	1927	油彩・キャンバス

NO	作者名	作品名	制作年	材質・技法
31	二見 利節	三人の女	1939	油彩・キャンバス
32	鳥海 青児	裸婦	1928	油彩・紙
33	鳥海 青児	裸婦	1928頃	油彩・板
34	鳥海 青児	道化	1939	油彩・キャンバス
35	鳥海 青児	男像	1942	油彩・キャンバス
36	鳥海 青児	サーカスの馬	1954	油彩・キャンバス
37	鳥海 青児	梳る女	1955頃	油彩・紙
38	鳥海 青児	黄色い人	1956	油彩・キャンバス
39	鳥海 青児	ピカドール	1958	油彩・キャンバス
40	鳥海 青児	大理石をはこぶ男	1958	油彩・キャンバス
41	鳥海 青児	ブラインドをおろす	1959	油彩・キャンバス
42	鳥海 青児	果汁を吸うマヤ人	1964	油彩・キャンバス
43	鳥海 青児	メキシコ人の家族	1969	油彩・キャンバス
44	鳥海 青児	フラメンコ	1972	油彩・キャンバス
45	鳥海 青児	男像（森田勝像）	1927	コンテ・紙
46	鳥海 青児	うづくまる	1954	紙・鉛筆・水彩
47	鳥海 青児	石をかつぐ人	1958	水彩・鉛筆・紙
48	鳥海 青児	メキシコ人	1961	鉛筆・紙
49	鳥海 青児	毘沙門天		水彩・紙
50	鳥海 青児	男像		インク・紙
51	鳥海 青児	うづくまる		インク・紙
52	原 精一	本をみる女	1934	油彩・キャンバス
53	原 精一	煙草のむ男	1936	油彩・キャンバス
54	原 精一	女の顔	1942	油彩・キャンバス
55	原 精一	二人の浴女	1949	油彩・キャンバス
56	原 精一	裸婦	1955	油彩・キャンバス
57	原 精一	黒衣少女	1955	油彩・キャンバス
58	原 精一	バレリーナF嬢	1956?	油彩・キャンバス
59	原 精一	椅子にかける裸婦	1960	油彩・キャンバス
60	原 精一	I 先生肖像	1962	油彩・キャンバス
61	原 精一	女達	1963	油彩・キャンバス

NO	作 者 名	作 品 名	制作年	材 質 ・ 技 法
62	横山 大観	不盡乃高嶺	1915	絹本着色 軸装
63	鐔木 清方	洛外乃春	明治中期	絹本着色 軸装
64	安田 靱彦	相撲の節	1907	絹本着色 軸装
65	安田 靱彦	寒香留古春	1920	絹本着色 軸装
66	安田 靱彦	菅公幼少の図	1939頃	絹本着色 額装
67	安田 靱彦	新蔬	1940	絹本着色 軸装
68	安田 靱彦	稚児文殊	不詳	絹本着色 軸装
69	萬 鐵五郎	茅ヶ崎風景	1922	紙本・墨 軸装
70	萬 鐵五郎	田園風景	1922頃	紙本・墨 軸装
71	小出 楯重	めでたき風景	1926	紙本淡彩 軸装
72	北沢 映月	女人卅	1972	紙本着色 額装
73	工藤 甲人	愉しき仲間 (二)	1951	紙本着色 額装
74	工藤 甲人	杉	1983	紙本着色 額装
75	工藤 甲人	相	1984	紙本着色 四曲一隻
76	近藤 弘明	寂韶苑	1982	紙本着色 額装
77	真垣 武勝	尾瀬	1963	油彩・キャンバス
78	山崎 隆夫	凱風	1970	油彩・キャンバス
79	横地 康國	光を求める群		油彩・キャンバス
80	小泉喜代次	立像	1979	水彩・紙
81	古川 恂	三美神	1968	油彩・キャンバス
82	小泉 元生	木曾の須原	1971	油彩・キャンバス
83	今村 信夫	遊び場	1966	油彩・キャンバス
84	大貫 達雄	山峽	1973	水彩・紙
85	岡本 里次	小雪降る街角	1967	油彩・キャンバス
86	高山 正三	黎		油彩・キャンバス

教育普及

どろん子ワークショップ

「土の思い出 ポタポタ・カチカチ」

講師	柿沼茂雄
アシスタント	山崎隆雄 石射亜希子
定員・対象	20名 小学生および中学生
開催日時	平成4年①7月21日(火)～22日(水) 13:00～16:00 ②7月24日(金)～25日(土) 13:00～16:00
作品展示	8月11日(火)～16日(日) アトリエA

子供の頃、だれもが地面に落書きしたことがあるだろう。地肌がむき出しになっているところは、舗装されてアスファルトに覆われてしまっている。以前に比べて、子供たちが、地面を相手に遊んでいる姿も少なくなり、公園の砂場に見られる程度になってきている。そのような中で、素朴な土への思いをそのままの形で残すことによって、純粹で、無垢な心を「土の思い出」として、いつまでも残してあげたいという願いが出発点となった。

そこで、子供たちに泥んこ遊びをさせて、その形跡を陶板に表現させるワークショップを開催した。

1回目、2回目ともに定員20名のところ7倍以上の応募があり、この企画への興味の深さがうかがわれた。



1日目 土で遊んだ（土をこねて的当てゲーム）後、土を「ふるい」にかけて加工しやすい粘土状にする。粘土状の土を使って思い思いに成形する。石膏を溶いてかけ、雌型をとる。こな粘土を足でこね、2日目の準備をする。

2日目 石膏の雌型に粘土の塊を押しつけて絵柄を写しとる。釘やヘラで補修後、無鉛透明釉薬で生がけする。（そのまま10日間乾燥した後窯に入れ、900℃で焼きあげる）残った土に、こな粘土を水に溶いた液をかけ、自由に創作する。

8/11～16 活動中の写真、材料用具、全員の作品を石膏の雌型とともに展示。

8/18 作品返却。

ワークショップ いろ・いろいろ

資料展示

開催日時 10月4日(日)～12月19日(土)

毎週金土日曜日、延べ33日間開催

開室時間 13:00～16:50

開催場所 アトリエA

観覧者数 およそ2,300人

「いろ・いろいろ」と題した一連のワークショップの開催期間中、公開製作やワークショップに関連する資料をアトリエAにて展示した。ワークショップへの参加だけではなく、これらの資料に参加者が親しく触れることにより、その理解に広がり加わることを期待できるからである。また、この資料展示は一般来館者にも公開された。

展示資料は主に絵具に関するもので、顔料となる鉱物や岩石を中心とする絵画材料の資料である。来館者にとって、このような資料を目にする機会が少ないためアンケートの集計結果にも、展示資料に対する好意的な受けとめ方があらわれていた。

展示資料

- ・絵具原石 アズライト、マラカイト他 57点 (平塚市美術館)
- ・粉砕前の新岩絵具 17点 (平塚市美術館)
- ・天然岩絵具と原石 7点 (平塚市美術館)
- ・油絵具をつくる道具 (平塚市美術館)
- ・岩絵具をつくる材料と道具 (平塚市美術館)
- ・昨年のワークショップの写真パネル5点 (平塚市美術館)
- ・BOX1 画材の引き出し博物館より9点 (目黒区美術館)
- ・顔料の製作 (東京芸術大学技法材料研究室)
- ・ビデオ 油絵具の製造工程 (ホルベイン工業 (株))
- ・参考図書 16冊 (平塚市美術館)
- ・平塚市美術館ワークショップテキスト 5種類
(日本画岩絵具・テンペラ絵具・パステル・水彩絵具・油絵具)



ワークショップ いろ・いろいろ

レクチャー 画材の博物誌—絵具の色と絵画の色—

講師 森田恒之（国立民族学博物館教授）

開催日時 10月4日(日) 13:00～15:00

申込不要・無料・およそ70名 聴講

西欧の油彩画と日本近代の油彩画の違いを材料と技法による違いという視点から講義をおこなった。平塚市美術館所蔵の日本近代の油彩画作品を中心に講義し、OHPやスライドプロジェクター、ポータブル型のテレビ顕微鏡などを用いた。

講義はまず、絵具とはなにかという話から始められた。次に絵具の屈折率についての簡単な実験を試みた後、西欧の油彩画作品（ルーベンス・エルグレコ・ピカソなど）がどのように絵具を用いているかという例をスライドによる部分拡大写真によって解説した。そして、日本近代の油彩画の例として当館所蔵の油彩画作品（萬鐵五郎・椿貞雄・原精一）を取り上げた。この際、テレビ顕微鏡で細部を拡大し、絵具の使用方法などを直にみせることができた。また、講演後聴講者から多くの質問が寄せられ、このテーマに対する関心が高かったことをうかがわせた。



ワークショップ いろ・いろいろ

公開製作パート1 天然日本画岩絵具

講 師 上田邦介（絵具屋三吉）
アシスタント 山田りえ
開催日時 10月11日(日) 13:00~16:30
資 料 本朝画法大伝（土佐光起）より
申込不要・無料・およそ60名 聴講

代表的な天然岩絵具のひとつ、群青の製作を公開した。群青の原石はアズライト（藍銅鉱）という青い石である。群青などのように天然石からつくられる岩絵具の製作工程は、現在でも手仕事に負うところが多く、このような岩絵具を製作するには手間と時間を必要とする。今回の公開製作では、原石から絵具になるまでのすべての工程を公開するため、製作途中の時間を短縮し、製作過程のものを事前に用意した。

また天然岩絵具は焼いて色味を変化させて用いることがある。今回は群青を電気こんろで焼き、色味の変化する様子を見せた。



岩絵具（群青）をつくる工程

- 1 選鉱
- 2 粗割り
- 3 粉碎
- 4 篩による粒子分け
- 5 水簸
- 6 不純物の除去
- 7 乾燥

ワークショップ いろ・いろいろ

公開製作パート2 水彩・パステル・テンペラ・油絵具

講師 植本誠一郎（ホルベイン工業（株）研究室長）

アシスタント 山田りえ

開催日時 10月18日(日) 13:00～16:30

テキスト 「絵具づくりの手引き」 6 P

申込不要・無料・およそ70名 聴講

水彩・パステル・テンペラ・油絵具を製作し、フレスコ画から始まり、それぞれの絵具が出現した歴史的、社会的背景によって、絵画材料、技法が変化してゆく絵画の歴史を講義した。卵テンペラ、水彩、パステル、油絵具は、実際に顔料とメディウムを練り合わせ、絵具を製作した。このことにより、絵具がどのような成分から構成されているか、またどのような性質を持っているかを具体的なものを通して理解できた。



講義および製作した絵具の種類

- 1 フレスコ
- 2 デトランプ
- 3 卵テンペラ
- 4 水彩
- 5 カゼイン
- 6 アクリル
- 7 パステル
- 8 油絵具



ワークショップ いろ・いろいろ

ワークショップ 色をつくる—岩絵具—

講師 上田邦介（絵具屋三吉）

アシスタント 山田りえ

開催日時 10月24日(土) 25日(日) 10:00~16:00

対象・定員 高校生以上 20名

資料 「粉碎/分粒/水簸で岩葉緑青をつくる」4P

クリソコーラ（珪孔雀石）から水緑青という名の岩絵具を製作した。日本画に用いられる岩絵具は、粉碎、篩い、水簸、乾燥という単純だがたいへん手間と時間のかかる工程を経てつくられている。

このワークショップでは、岩絵具の特徴である粒子の大きさによる色味の違いがどのようにつくられているのかを体験した。岩絵具は粒子の大きいものは色が濃く、粒子がこまかくなればなるほど色が薄く、白くなってゆく。ワークショップでは製品番号で8・9・10・11・12・13・白にあたる粒子の絵具を製作した。また、水簸では、上田講師が考案した水時計を使用した。

10/24 ひとりあたり100gの原石を粉碎し乳鉢でこまかくする
石の粉末を100メッシュと300メッシュの篩に通す

10/25 ボウルの中に篩い終えた粉末顔料と水を入れ攪拌する
攪拌後、静置し、上澄み液を次のボウルへ移す
水中で沈降する時間の長短を利用し、粒子を分ける（水簸）

乾燥

岩絵具をつくる工程

- 1 選鉱
- 2 粗割り
- 3 粉碎
- 4 篩による粒子分け
- 5 水簸
- 6 不純物の除去
- 7 乾燥



ワークショップ いろ・いろいろ

ワークショップ 色をつくる ー油絵具ー

講 師 植本誠一郎（ホルベイン工業（株）研究室長）

アシスタント 山田りえ

開催日時 10月31日(土) 11月1日(日) 10:00~16:00

対象・定員 高校生以上 20名

顔料とメディウムをガラス板の上で練り合わせ、手練りの油絵具を5種類製作した。製作した絵具はローズマダー、ウルトラマリン、イエローオーカー、アイボリーブラック、シルバーホワイト。製作した絵具はチューブに充填し、ラベルを貼って持ち帰った。また、油絵具の製作で使用するタイプI、タイプIIのメディウムを利用し、『つやあり』『つやけし』の2種類の画用液を調合した。最後に参加者が製作した油絵具と画用液で色見本を製作した。



10/31 メディウムタイプII製作

シルバーホワイト・ウルトラマリン製作

『つやあり』の画溶液調合

11/1 メディウムタイプI製作

ローズマダー・イエローオーカー・アイボリーブラックの製作

『つや消し』の画溶液調合

油絵具色見本の製作



ワークショップ いろ・いろいろ

ワークショップ 平塚の土からつくる色

講 師	小川知紀（造形作家） 森 慎一（平塚市博物館学芸員）
アシスタント	星野美津子
開催日時	11月7日(土)21日(土)12月5日(土)19日(土) 10:00~16:00
対象・定員	高校生以上・30名
資 料	絵具のつくりかた 日本画岩絵具 絵具のつくりかた 水彩絵具

平塚の土の観察・採取からはじめ水彩絵具を製作した。このワークショップは身近な土を用い、絵具をつくる試みである。

このワークショップは地層の観察からスタートした。そのため、「地質としての土」と「色としての土」という二つの視点から絵具を製作できた。あらためて見直して見ると、身近に存在する土はさまざまな種類と色味をもっている。

土は粉碎、水簸、乾燥、の過程を経てこまかい粒子になった。それをメディウムと練り、水彩絵具を製作した。最後に色味が比較できるよう塗り見本を製作し、色に名前をつけた。透明・不透明水彩各10色の絵具ができあがった。



11/7 土の観察と採取（平塚市高根方面）

資料展示見学

11/21 土の粉碎

100メッシュと300メッシュの篩いをとおす
土を熱する

12/5 水簸

乾燥

透明・不透明水彩用メディウムの製作

12/19 顔料となる土とメディウムの練り合わせ

完成した水彩絵具を2号チューブに充填
製作した絵具の色に名前をつける
水彩絵具塗り見本の製作



シャガール版画展関連ワークショップ

シャガール探検ギャラリーツアー

講師 榎本寿紀（造形作家）

アシスタント 笹島陽子

星野美津子

森川真弓

開催日時 Aコース 2月27日(土) 13:30～15:30

Bコース 2月28日(日) 13:00～15:00

対象・定員 小学生 各20名

シャガール版画展と美術館をたのしく体験するワークショップ。ツアープログラムの最初はまず、美術館の裏方の探検から始めた。常時美術館を守っている警備の仕事や、24時間体制で温湿度を管理している機械等を見学。その後展示室で、『以心伝心』『サーカス』『悪童たち』『大型リトグラフ』の4種類のシリーズを鑑賞。

ギャラリーツアーは、実際のサーカスの写真パネルをこども達に見せ、展示室内のワークシートを利用し、『サーカス』シリーズを中心に行った。あわせて銅版画の用具やプレス機も見学した。Aコースでは参加者を二つのグループ各10名ずつに分け、別々のコースをまわった。Bコースでは方法を変え、3つのグループに分けグループ毎にリーダーがついたが、全員同じコースをまわった。



ギャラリーツアーBコースの例

アトリエ→エントランスホール→駐車場→搬入口→警備員室
→事務室→搬入口→エレベーター→写真室→テーマホール→
展示室→アトリエ



シャガール版画展関連ワークショップ

銅版画（エッチング）

講師	藤田 修（版画家） 小池光理（当館学芸員）
アシスタント	山田悦子
開催日時	2月2日～3月16日の毎週（火）全7回 18：00～20：30
対象・定員	高校生以上 12名

シャガール版画展（2月13日～3月21日）の版画作品の多くは銅版画と石版画であった。シャガール版画関連ワークショップとして今回は銅版画を取り上げた。銅版画の中でもエッチングは防蝕剤をコーティングした銅版をニードルなどで描画し、銅の地を露出させ、そこを酸で腐蝕させるという方法である。また、松ヤニの粉末を熱で銅版に定着させて腐蝕し、明暗をつくり出すアクワチントも併用した。

このワークショップは、はじめて銅版画の制作を体験する人を対象にし、社会人も参加しやすいよう夜間全7回で開催した。



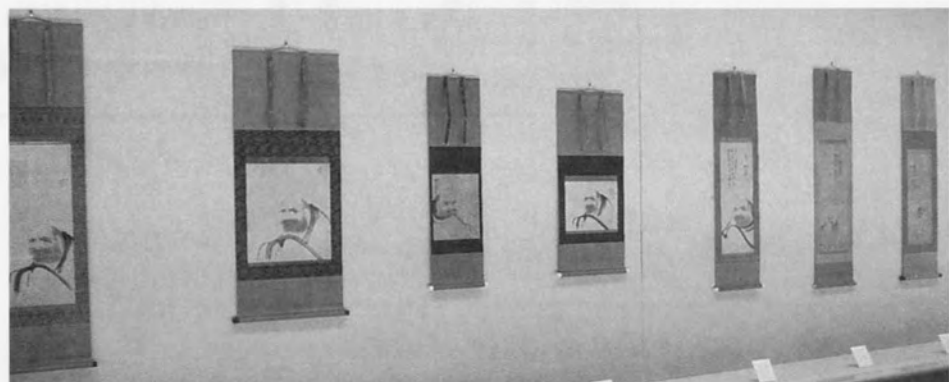
-
- | | |
|--------|---|
| 2 / 2 | 講義 シャガールの版画について（小池）
ガイダンス 銅版画と材料・技法・用具について（藤田） |
| 2 / 9 | 銅版の上に防蝕剤（グランド）をひく
下絵の銅版に転写
描画 |
| 2 / 16 | 腐蝕
アクワチント |
| 2 / 23 | 腐蝕、加筆、訂正、刷りの繰り返し
 |
| 3 / 16 | 本刷り |

ビデオ制作

湘南にゆかりのある美術家を選び、その生涯や作品を紹介するオリジナル・ビデオを制作し、ビデオコーナーで放映した。

平成4年度 日本近代洋画の父 黒田清輝 (19分19秒)

企画展



風外慧燕展



花鳥画展



竹久夢二展

企画展



木内克展



三岸好太郎と三岸節子展



田中真洲回顧展

企画展



シャガール展

常設展・市民アートギャラリー



常設展



平塚市展



市民アートギャラリー展示

保存・修復

平成4年度保存・修復作品

絵画

No.	作者名	作品名	材質・技法	サイズ(cm)
1	原 精 一	「少女」	油彩・キャンバス	45.4×52.9
2	原 精 一	「男(座像)」	油彩・キャンバス	70.2×52.2
3	原 精 一	「(仮) 静物」	油彩・キャンバス	41.0×53.1
4	原 精 一	「静物習作」	油彩・キャンバス	45.5×51.5
5	原 精 一	「(仮) 中国服」	油彩・キャンバス	56.8×32.7
6	原 精 一	「水辺裸婦」	油彩・キャンバス	79.2×99.7
以上の保存・修復処置				黒江光彦

彫刻

No.	作者名	作品名	材質	サイズ(cm)
7	保 田 春 彦	「赤錆の墓舎」	COR-TEN銅	257×296×209
以上の保存・修復処置(有)				山岸鋳金工房
8	淀 井 敏 夫	「海」	ブロンズ	330×240×160
9	柳 原 義 達	「座る女」	ブロンズ	71×100×45
10	舟 越 保 武	「海の顕彰碑 渚」	ブロンズ	194×60×50
11	佐 藤 忠 良	「緑」	ブロンズ	190×80×70
12	ホセ・デ・リベラ	「コンストラクション#115」	ステンレススチール	900×600×600
以上の保存観察記録書作成(有)				山岸鋳金工房

平成4年度 収蔵作品

購入作品

分類	作者名	作品名	制作年	材質・技法	サイズ(cm)
日本画	安田靫彦	寒香留古春	1920	絹本・着色	138.6×49.6
	安田靫彦	相撲の節	1907	絹本・着色	113.0×41.7
	安田靫彦	稚児文殊		絹本・着色	117.5×42.5
	安田靫彦	新蕨	1940	紙本・着色	39.1×56.9
油彩画	中川一政	椅子の女	1941	油彩・キャンバス	73.0×61.0
	萬鉄五郎	宙腰の人	1924	油彩・キャンバス	41.2×27.2

寄贈作品

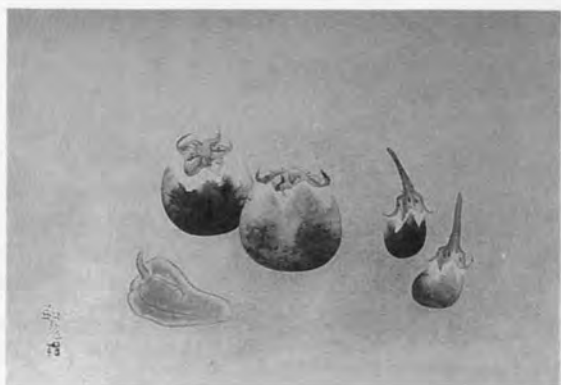
分類	作者名	制作年	材質・技法	サイズ(cm)	寄贈者
書	日下部鳴鶴	五言絶句	1910	紙本墨 六曲一双	鈴木良一



安田靫彦 寒香留古春 1920年



安田靫彦 相撲の節 1907年



安田頼彦 新 蔬 1940年



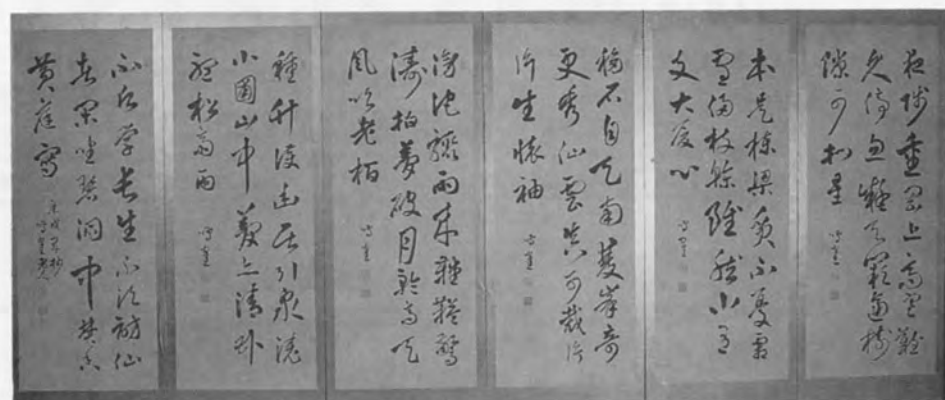
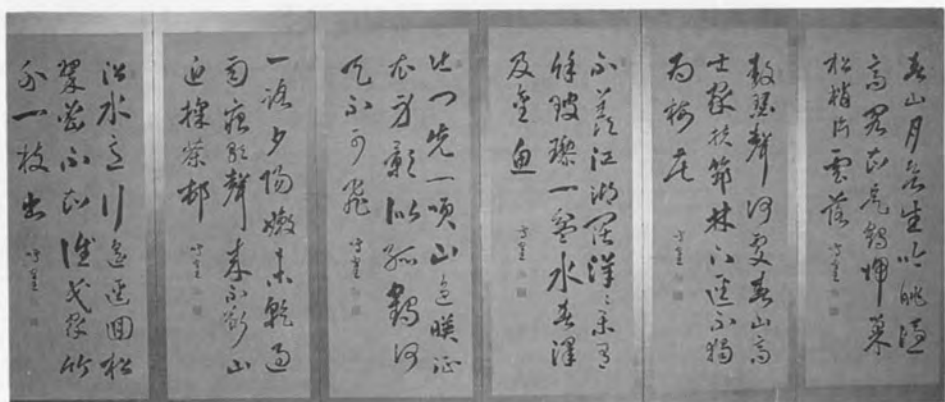
安田頼彦 稚児文殊 1907~12年頃



萬鉄五郎 宙腰の人 1924年



中川一政 椅子の女 1941年



日下部鳴鶴 五言絕句 1910年

平成4年度 観 覧 者 数

(人)

月	開館 日数 (日)	企 画 展					常 設 展					合 計
		一 般	高大生	小中生	未就学	計	一 般	高大生	小中生	未就学	計	
4	26	4,165	96	459	131	4,851	4,083	98	464	115	4,760	9,611
5	21	14,841	221	839	268	16,169	12,553	207	783	180	13,723	29,892
6	24	21,334	535	629	383	22,881	16,681	311	642	228	17,862	40,743
7	27	1,053	0	270	0	1,323	1,773	83	604	53	2,513	3,836
8	26	2,881	60	802	60	3,803	2,592	151	1,200	93	4,036	7,839
9	24	4,144	100	284	106	4,634	3,743	104	381	88	4,316	8,950
10	27	15,258	305	1,022	199	16,784	12,346	262	1,172	156	13,936	30,720
11	24	5,219	99	189	71	5,578	4,806	153	273	81	5,313	10,891
12	24	2,602	23	39	40	2,704	2,000	37	79	48	2,164	4,868
1	24	0	0	0	0	0	1,126	67	115	65	1,373	1,373
2	21	5,442	489	732	236	6,899	4,861	405	721	172	6,159	13,058
3	26	9,073	650	1,844	353	11,920	7,887	548	1,481	244	10,160	22,080
合計	294	86,012	2,578	7,109	1,847	97,546	74,451	2,426	7,915	1,523	86,315	183,861

平成4年度 施 設 利 用 状 況

月	開館 日数 (日)	視 察 ・ 施 設 見 学						会議室等
		市 内		市 外		計		
		件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数	
4	26	0	0	5	294	5	294	3
5	21	1	45	3	44	4	89	4
6	24	8	311	7	298	15	609	4
7	27	1	4	7	190	8	194	7
8	26	0	0	4	112	4	112	3
9	24	2	52	1	36	3	88	5
10	27	9	279	10	189	19	468	8
11	24	3	63	8	231	11	294	8
12	24	3	106	6	119	9	225	6
1	24	0	0	6	55	6	55	7
2	21	2	15	9	119	11	134	4
3	26	12	876	4	11	16	887	5
合計	294	41	1,751	70	1,698	111	3,449	64

平成4年度 学校団体観覧利用者数

		常 設 展			企 画 展・常 設 展		
		学校数	児童生徒数	教員数	学校数	児童生徒数	教員数
小学校	市内	5	541	21	13	935	43
	市外	1	116	5	2	165	11
中学校	市内	4	268	11	22	1,923	113
	市外						
高等学校					4	23	7
養護学校					6	147	80
合 計		10 校	925 人	37 人	47 校	3,193 人	254 人

平成4年度 市民アートギャラリー利用状況

月	展覧会 開催日数 (日)	利 用 団体数 (件)	入場者数 (人)	展 覧 会 名
4	26	4	6,662	ひらつか芸術展、平塚華道協会創立40周年記念 華道展、ティーサロン湘南展、園江の絵の会グ ループ展
5	21	3	6,937	渡辺陽心個展、現代童画神奈川支部展、寂静会第 1 回展
6	24	2	3,834	パッチワーク作品展、平塚書道協会展
7	27	3	6,674	第10回神奈川県筆友会書道連盟公募展、ヴィブ ラヴィ・アート・フォーラム、第15回平塚市展
8	26	3	4,237	すってん展、大門書悠会展、青い鳥アールヴィ ヴァン27回美術展
9	24	6	5,239	現展神奈川、茂田綾子展、圓心流画道小麦会展、 平塚美術協会、'92写真展、親と子による写生会 作品展
10	27	6	11,754	MOA平塚児童画展、第7回遊覧会陶芸サロン 展、第28回JRP写真展、平塚市中学校絵画展、 平塚市文化祭（第1部）・（第2部）
11	24	4	8,718	第28回神奈川県美術展入賞作品県内巡回展平塚 展、平塚市幼小図工作品展、皓晨会総集展、グ ループ針布のパッチワーク展
12	24	5	3,310	グループ抽展、ひびきの会、平塚市医師会文化 祭、井上絵画教室作品展、第17回湘南工芸家協 会展
1	24	4	3,323	湘南のゴッホ・矢羽々薫展、崇善小学校絵画展、 波の子作品展、現代美術の色彩
2	21	4	3,213	第8回ろうきん子供書初め展、なかよし作品展、 湘南養護学校美術展、柳彩会水彩画展
3	26	6	7,246	岡村工房陶芸教室展、パンの花ルナ・フローラー 展、'93和田造形絵画作品展、菁陶会作品展、藤 村弘子個展、湘南作家展
合計	294	50	71,147	

第15回 平塚市制60周年記念 平塚市展

会 期 平成4年7月25日(土)～平成4年8月9日(日)

主 催 平塚市展委員会

主 管 平塚書道協会、湘南工芸家協会、平塚美術協会、平塚写真連盟

後 援 平塚市、平塚市教育委員会、平塚市美術館、平塚文化連盟、平塚商工会議所、TVKテレビ、SCN湘南ケーブルネットワーク

会 場 平塚市美術館 展示室Ⅰ・市民アートギャラリー

展示室Ⅰに工芸、書、写真部門が、市民アートギャラリーに絵画・彫刻部門が展示された。本展は、15回を記念する展覧会として位置づけられ、新たに平塚市美術館賞およびTVKテレビ賞が設定され、また、「平塚市展15周年記念誌」(B5横版、56頁、平塚市展委員会)が発行された。

沿 革

1984年	5月	美術館建設研究委員会発足（庁内）
1985年	7月	平塚市美術館基本構想策定委員会設置 (1986年まで8回開催)
1986年	3月	「平塚市美術館基本構想策定」答申
1986年	4月	美術館建設基本計画策定連絡協議会設置（庁内）
1986年	9月	「平塚市美術館建設基本計画」策定
1988年	4月	美術館建設準備室設置
1989年	6月	美術館建設 起工
1990年	10月	美術館本体工事 竣工
1990年	12月	平塚市美術館条例 公布
1991年	3月	平塚市美術館 開館

運営・組織

美術館協議会

委員名簿

会 長	水越 謙	元教育委員、前平塚ロータリークラブ会長
副会長	今村信夫	元市立金田小学校長
委 員	村重 寧	東京国立博物館美術課長（美術史家）
”	安田建一	中央公論美術出版社長（美術評論家）
”	平野 博	元美術館基本構想策定委員、無形文化財育成担当参与
”	水島英耀	市文化財保護委員、市文化連盟委員長、元市議会議長
”	武井徳一	社会教育委員、市美術協会会長
”	芝山恵美子	国際ソロフ° チミスト平塚会会長

協議会の開催

平成 4 年 5 月 20 日	（美術館研修室於） 1、平成 3 年度事業報告について 2、平成 4 年度事業計画について 3、その他
平成 4 年 10 月 28 日	（美術館研修室於） 1、平成 4 年度上期事業報告について 2、先進地視察について 3、その他
平成 5 年 3 月 4 日～5 日	先進地美術館の視察 ・三重県立美術館 ・愛知県美術館

組 織



職員名簿

館長	長	原田	實
参事兼副館長	兼長	大城	宣
館長補佐兼管理係長	兼長	亀谷	幸藏
管理係		添田	勝子
		高橋	秀夫
		戸塚	清
		近藤	俊男
学芸係長		森田	英之
企画担当主査		岡部	幹彦
学芸係		小松崎	拓男
		石渡	尚
		柿沼	茂男
		鈴木	幹
		端山	聡子
		小池	光理

平成4年度

平塚市美術館年報

発行 平塚市美術館

〒254平塚市西八幡1-3-3

Tel0463(35)2111

印刷 株興版印刷

Tel0463(32)1899

平塚市新町7-15

平成6年3月31日発行